

佐賀県神社庁報

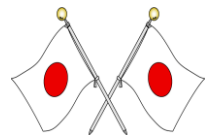
第301号

★発行者 佐賀県神社庁

庁長 徳久 俊彦
佐賀市川原町八番二七号

★メールアドレス

hizen.sagaken-j-chou
@shore.ocn.ne.jp



祝祭日には国旗を
掲げましょう

神殿例祭の御案内

十一月十九日、恒例による神社庁
神殿例祭を斎行致します。

天照坐皇大神を始め、県内各
神社の御祭神並びに、国学の四大
人（荷田春満大人、賀茂真淵大人、
本居宣長大人、平田篤胤大人）の御
前に、日頃の御神恩に感謝申し上
げ、皇室の弥栄と我が国内外の平
穏、産霊の繁栄を祈念する祭典で
あります。

つきましては、標記の通り斎行
致しますので、神職はもとより、下
記役職を兼ねておられる皆様は御
参列賜りますよう、御案内申し上
げます。

◇後日お届けする往復はがきの返信面にて出欠をお知らせ下さい。
直会準備の都合上、**十一月十日(金)迄**に投函願います

一、期 日

令和五年十一月十九日(日)

午後三時斎行

一、場 所

平和会館三階「神殿の間」

一、案 内

神社庁役員、監事、協議員

教化委員、研修所講師、支部長

支部幹事、大麻幹事

県総代会役員、評議員

総代会支部長、各指定団体会長

ほか管内神職

行事予定

十月

四日

東松浦地区西支部神宮大麻
曆頒布始奉告祭
於玄海町あすぴあ

八日

鏡神社例祭

十二日

佐嘉神社御鎮座九十年式年祭

十三日

佐賀縣護國神社前夜祭

十九日

佐賀縣護國神社秋季例祭
(～十四日)

十九日

稲佐神社例祭

二十日

白石神社創建二百年祭

二十二日

神社本庁評議員会 於本庁

二十七日

与賀神社例祭

三十日

西松浦地区支部神社関係者
大会 於伊万里市JA会館

十一月

八日

役員会

八日

佐賀地区第二支部南神宮大
麻曆頒布始奉告祭



**令和五年度
国民精神昂揚運動合同研修会開催**

去る九月二十一日(木)～二十二日(金)にホテル龍登園において令和五年度国民精神昂揚運動合同研修会が開催された。午後一時半より開講式が行われ、

於新北神社

九日 第四十五回福岡矯正管区

教誨師研修大分大会

於トキハ会館

十日 三養基地区支部神宮大麻曆

頒布始祭 於玉名市

十七日 九州各県神社庁長・総代会長

会 於福岡県神社庁

十九日 神社庁神殿例祭

二十八日 全国教化会議(～二十九日)

於神社本庁

二十九日 第四回教化委員会 於神社庁

午後二時より長崎県松浦市鎮座今福神社宮司早田伸次先生より「過疎地域神社の教化活動」、稲佐神社宮司笠原 猛先生より「神社総代の為の神社祭式・行事作法」と題して各一コマの御講演を戴いた。

その後、午後六時半よりは懇親会を開催し、各支部交流を深め、翌二十一日は、午前七時半より朝拝行事を行い、與止日女神社山崎隆臣宮司が奉仕。参加者一同にて大祓詞を奏上した後、玉串を奉り国旗を通して拝礼。

その後の講演は、神社本庁教化広報部教化課長主事 北島一孝先生より「過疎地域に鎮座する神社の実態と将来的展望」と題してニコマの御講演を戴いた。終了に際しては、聖寿の万歳を奉唱し、無事に二日間に亘る全日程を終えた。

～運営に際して御協力戴きました

皆様に御礼申し上げます

令和五年度

神社庁神宮大麻曆頒布始奉告祭

去る九月二十六日、平和会館三階「神殿の間」において神社庁神宮大麻曆頒布始奉告祭が斎行された。



齋主には永代副庁長、神道青年会より大島仁志高木八幡宮祢宜、松中朝比古掘江神社祢宜、古川恭子伊勢神社祢宜が祭員として奉仕した。

当日は、徳久神社庁長、南里総代会長を始め、六十名が参列し、祭典は次第に則り斎行され、祝詞奏上後の「神宮大麻授受」では、齋主より神社庁長へ、神社庁長から総代会長へ授受がなされた。

祭典に引き続き、南里会長より県下十三支部の総代会支部長へ神宮大麻・曆が手交され、各支部へと頒かたれた。また併せて優良奉仕者表彰の伝達式が行われ、各被表彰支部、特別優良奉仕者、優良奉仕者、神職以外の優良奉仕者へ、表彰状と記念品が神社庁長より伝達された。



神宮大麻曆頒布表彰 (敬称略)

一、支部

佐賀地区第二支部南

唐津市地区支部

一、特別表彰頒布優良奉仕者

稲佐神社宮司 笠原 猛

一、優良頒布奉仕者

白鬚神社宮司 西原 清純

千栗八幡宮宮司 東 正弘

天子神社宮司 北村 建治

大堂神社宮司 石丸 正幸

正現嶽森稻荷神社宮司 持永 圭子

大木神社宮司 藤 友子

金刀比羅神社宮司 古川 勝茂

高木八幡宮宮司 大島 明彦

日子神社宮司 木原 隆光

賀茂神社宮司 岡本 長世

一、優良頒布奉仕者(神職以外)

新北神社総代会長 垣内 利秋

唐津神社責任役員 辻 幸徳

◆◆教化委員たよりの◆◆

淀姫神社祢宜 田中 寛美

十月は各地の神社で秋祭りが斎行され、境内が賑わいを見せる季節となります。今回は本務神社であり、淀姫神社の秋祭りの移り変わりについて紹介いたします。

淀姫神社は、氏子数四百三十戸程度の町に鎮座するいわゆる過疎地域の神社です。例祭は九月二十三日に行われ、お供四十名で神輿の巡行、境内にて町民相撲大会(江戸時代から続く大人・子供・赤ちゃん等百二十名の参加に応援者が加わる。社務所台所では奥様方による手作り昼食づくり)、相撲大会と同時進行で社殿では神事が行われ、町の各団体・責任役員・氏子総代の様々な方の協力を得て、町民が境内に集い神社が一番賑わいを見せる一大イベントです。

しかし令和元年を最後に新型コロナウイルスの影響を受けて、令和二年・翌三年と神輿の巡行及び相撲大会は中止になり神事のみ斎行されました。令和四年は神輿巡行の復活を試みましたが、神輿当番地区でコロナ感染者が増加し神輿巡行は再び中止になり神事のみ斎行でした。そして昨年の秋頃、氏子総代の中から「もう神輿の巡行は高齢化もあって出来ない」と意見が出始めます。若手の減少により当番地区で四十名集めるためには、高齢の方も神輿巡行に参加する必要があります。当日は例年暑く、約二時間にわたる巡行は熱中症や安全面にも配慮しなければなりません。何度も会議を重ね、当番地区から四十名を集める

のではなく、各地区から毎年五名ずつ合計四十名の若手を選出し神輿を巡行することに決定しました。

いよいよ今年七月頃からは町民相撲大会について準備がはじめられたのですが・・・八月になりいざ蓋を開けてみると相撲を取る選手が居ないのです。

「三年も相撲を取っていないから無理」「子供がケガをしたら」「三年の間に小学校での相撲の授業がなくなつた」などの意見でした。伊万里市の少年相撲大会は、四年連続中止となっており、その余波でありました。極力伝統を絶やさず相撲大会の形だけでも残そうと神社総代側と町の各団体が会議を重ねた九月上旬、招待町外選手五名と手を挙げてくれた町内選手五名、また子供相撲と赤ちゃん相撲が開催されると決定し、どうにか中止を避けることができました。

町民が利便性を求めて地元を離れていきます。少子高齢化の中で神社と氏子が支え合うには、神職は地域の中に馴染み、程よい距離感を保ちながら交流を密にすることも大切だと思います。形を変えながら時代に合わせた改革も必要です。今後も神社の存続に繋がるよう努めてまいりたいと思っています。

◆◆◆敬神婦人会たより◆◆◆



去る九月十二日(火)午後一時よりシーガイアコンベンションセンター(宮崎県)において創立七十五周年記念 第七十三回全国敬神婦人大会宮崎大会が開催されました。当県からは、五月に開催

した単位会長会における宮崎県までの移動距離等に関する方針に基づき、単位会長有志での参加となりましたが、大会は宮崎神宮氏子青年会獅子組による獅子舞の記念清興が行われ、神社本庁統理鷹司尚武さま、神宮大宮司久邇朝尊さまなどの御来賓をお招きしての式典、当番県県連会長を議長とした議事の順にとり進められ、最後に記念コンサートとして



てカウンターテナー歌手 米良美一氏による記念コンサートがあり盛会なものとなりました。翌十三日には

宮崎神宮を正式参拝し、大会日程の全てを終えました。今回の日程において、現地では前事務局の佐師功浩潮嶽神社祢宜の助勢を戴きました。この場を借りて改めて御礼を申し上げます。

またこの度、全国敬神婦人連合会周年表彰として県連役員・事務局と協議の上内申致しましたところ、県内各単位会長さまが表彰の榮に浴されましたことを御報告申し上げます。後日、記念品と表彰状が送付されますので御承知置き願います。

◆◆◆研修修了レポート◆◆◆
全教神協全国大会・中央研修会

に参加して

日枝神社祢宜 日吉 照彦

去る七月二十八日から二十九日にかけて福島県郡山市で開催された全国教育関係神職協議会第六十二回全国大会・中央研修会に参加させていただきましたのでその報告をします。

今回の主題は、「神道精神に根ざした真の日本人を育てるために」でした。

全国大会ということで全教神協の総会の後、産経新聞客員論説委員の湯浅博氏が「米中覇権争いと日本の覚悟」と題して基調講演をなさいました。その中で、

専守防衛では国を守ることはできないこと、自立と相互協調が必要だがインド太平洋戦略によってTPPに米を引き込むことも必要となっていること、また対中抑止力の意義などについて話されました。国難は平和の仮面をかぶって近づいてくるという言葉が印象的でした。

分科会がありました。私は第一分科会の「教育現場のために何ができるか」に参加しました。その中で、神道精神について、地域の歴史文化に学ぶ観点から小二の教材「いなばのしろうさぎ」では『古事記』のことにも言及されたそうです。また、小5の米作りや小6の日本文化のことで神社のことを発信できたそうです。また、高校では、年中行事の中で郷土・祭りの意義に触れることができ、「宮中歌会始」の「お題」を生徒へ提示して応募する作品作りを進めた例も取り上げられました。参加者の中からコミュニティスクールへ参加することの意義について説明された方がいらつしやいました。私自身、地域の中学校のコミュニティスクールへ学校運営協議会委員として参加しており気持ちを強くしました。神社と教育の連携は、地元郷土史への理解を深め、愛郷心を高揚させ、過去から現在、そして未来へと思いをは

せる力を育成することも分かりました。研修会最後の記念講演では、学習院大学教授・元福島県立博物館館長の赤坂憲雄氏が「異邦人が見た日本人の宗教」について話をされ、イギリス人女性探検家の紀行文に見られる内容から欧米人と日本人の宗教観の違いについて繰り返し強調されましたが、欧米のキリスト教と日本の八百万の神々とは当然のことと思えました。

終わりに、今回の機会を与えて戴きましたことに深く感謝申し上げます。

神社庁祭祀舞指導者養成

研修会に参加して

陶山神社祢宜 宮田 彩子

去る八月二十五日より二十七日の三日間、神社本庁総合研究所主催の「神社庁祭祀舞指導者養成研修会」に参加させて頂いた。各県より一名ずつの参加が認められているが、本年度は全員で十五名という少人数での研修となった。

例年の通り、講師は神社本庁祭祀舞講師・小野貴嗣先生・同じく東儀季祥先生、神社本庁祭祀舞講師補・小野亮貴先生のお三方であった。

初日は二班・二日目からは三班に分かれての研修となった。一班は初回参加の

六名・二班は四回以上の六名、三班は三回目の三名。という班構成となった。やはりこの研修に集う人はそれぞれに舞を習得している。しかしながらその熟練度にて先生方の教え方にも変化がある。基本的な所を十分納めたらその次はよりよくするための体の動かし方・心構えなど。舞は型どおり出来ればそれで終わりではない。やはり奥が深い。

私は今回三回目だったので三班の三名の一人となった。三名に一人先生が付いて教えて下さるといふこの上ない贅沢な時間であったが、それ故に緊張感もなかなかのものだった。大体一人ずつ舞わされたので自分の未熟な点・不明瞭な点が顕著に明らかになる。先生の前で一人で舞うということはこんなに緊張するものだったかと言いうくらいガチガチになった。自分の曖昧な点が浮き彫りになるといふ点ではとてもいい勉強になる。しかし緊張でいつも通りできないという点もある。たまに自分が舞を教えるときに、「じゃあ、一人でやってみよう」とか軽く言うが自信のない人にそれをさせてしまったら尚更であろう。自分の舞と言うことだけでなく、先生方の指導方法・言葉遣い・舞に対する思いなども勉強になる貴重な時間であった。

今回の舞の研修生、また特に同期の二人とは本当にいい仲間となれた気がする。やはり同じ志を持った人同士は打ち解けるのも早い気がする。今回から参加された方々も皆さん良い方々で熱い思いを持って参加されていた。コロナの影響もあり懇親会などは無かったが、ライングループをみんなで作ったりして研修会後も舞についての相談なども続けている。来年もまた一緒に頑張ろうと本庁を後にそれぞれ帰途についた。

日常の社務・家事などを一切考えずに舞に集中できるこの贅沢な三日間という時間を与えてくださった庁長様はじめ神社庁の方々には心より感謝申し上げます。そして私が享受したものを早く皆様に還元出来るように研鑽を積み重ねればと思いを新たにしました。本当にありがとうございます。

研修修了報告

佐賀県神社庁研修所主催

▽国民精神昂揚運動合同研修会

一、期 日

令和五年九月二十一日(木)

二十二日(金)

一、開催地

ホテル龍登園

一、修了者

川浪	勝英	永代龍三郎
川浪	ひとみ	永代 優仁
石丸	正和	笠原 猛
深堀	行則	中村 勝正
山邊	和之	鍋島 朝寿
東	孝澄	有森 龍弘
栗原	潔	宮崎 春己
百枝	直人	池田 知史
岡本	長世	佐野 安正
石橋	明彦	藤田 俊介
重藤	薫範	落合 洲造
戸川	健士	山下 美幸
宮崎	貞克	徳久 俊彦
藤瀬	昭三	古川 恭子
中島	暢祐	中村 良信
野崎	洸史	江頭 慶宣
井崎	さとみ	田中 美香
北島	巖	名和 長高

以上、三十六名

他十二名

■稲佐神社宮司 笠原 猛

・参拝日 皇大神宮
 令和五年九月十五日
 ・員数 太原下三夜待
 山口 真 他八名

■稲佐神社宮司 笠原 猛

神職身分二級上とする 令和五年九月十日

寄贈書籍等目録並びに御芳名

自 令和五年 九月 一日
 至 全 三十一日
 ・代々木 第五三四号 明治神宮 様
 ・皇國時報総目次 神社本庁総合研究所 様
 ・飛梅 第二〇八号 太宰府天満宮 様
 ・北海道神社庁報 第一二八三号 北海道神社庁 様
 ・すいとく 第八三〇号 竹駒神社 様
 ・宮崎県神社庁報 宮崎県神社庁 様
 ・社報 まつのを 第四八号 松尾大社 様
 ・高知県神社庁報 第八六五号 高知県神社庁 様
 ・滋賀県神社庁報 No.二二二 滋賀県神社庁 様
 ・東神 No.一〇三三 東京都神社庁 様

【任 免】

■松岡神社宮司 有森 龍弘
 鹿島市大字三河内鎮座
 兼ねて三嶽神社宮司に任ずる
 兼ねて救世神社宮司に任ずる
 兼ねて思瓊神社宮司に任ずる
 兼ねて松山神社宮司に任ずる
 令和五年十月一日

■妻山神社祢宜 永代優仁

杵島郡白石町大字福富
 兼ねて福富神社宮司代務者に任ずる
 令和五年十月一日

事務報告

【御垣内特別参拝許可願申請】

■伊勢神社宮司 古川 和生
 ・参拝日 皇大神宮
 令和五年九月十日
 ・員数 第八十伊勢会
 真崎俊夫指定小神

【昇 級】

■淀姫神社祢宜 田中 寛美
 ■日枝神社宮司 野崎 洸史
 神職身分二級とする
 令和五年九月一日